

第2回オープンキャンパス 模擬授業一覧

[2025 年 8 月 10 日 (日)]

栄養	「病院管理栄養士と在宅訪問栄養食事指導について」(教授 中村 育子) 栄養学科では 2 年生から臨床栄養学や臨床栄養学実習を学びます。臨床栄養学では、病院(入院・外来・在宅)の傷病者における給食管理と栄養管理について学習します。模擬授業では病院における管理栄養士の仕事内容と、近年、在宅医療の現場で在宅訪問栄養食事指導のニーズが高まっているため、在宅訪問栄養食事指導について説明します。
看護	① 「看護技術体験：聴診器を使い体のなかを把握してみましょう！」 (准教授 岡田 郁子) 看護は対象者をよく観察し、その人に必要な看護を行っていきます。その方法の一つとして、聴診器を使い観察する方法があります。表面から見ただけではわからない体のなかの状態を、聴診器を使うことで把握することができます。その看護技術を体験してみましょう。
	② 「行政で働く看護職「保健師の活動を紹介します」」 (教授 播本 雅津子) 現在日本で働く保健師は約 6 万人で、その約 7 割が保健所や市町村で行政に携わっています。日本の看護の歴史を振り返ると、明治時代から人々の暮らしの近くに看護職がいました。日本の保健医療の仕組みで保健と医療は分かれており、保健師は主に保健分野で活動しています。模擬授業では、行政の保健師の活動の実際をご紹介します。
	③ 「呼吸法、弛緩法、つぼ、MS 痛みに対するケアをマスターしよう。」 (教授 加藤 千恵子) 助産/母性看護学領域では、周産期、特に、分娩期の産痛緩和のためのケアを実践できるように学びます。対象の傍にいて、異常の早期発見ができるための観察力と産痛緩和のケアの様々な技術を使って、産婦さんを支えます。安全と安楽のケアの実践の一端を学びます。これらの技術は普段の生活から活用し、自らのセルフケアに活用してこそ、対象への具体的なアドバイスになります。是非、あなたも癒しのプロになりましょう。
社会福祉	「農福連携と地域福祉」(准教授 小泉 隆文) 「農福連携」という言葉を耳にしたことがある方がいるかもしれません。文字どおり「農業と福祉が連携する」という意味ですが、実際にどのように連携しているかはあまりご存じない方が多いかと思います。当初は、障害のある方が農作業に携わることを想定していましたが、現在では障害者だけではなく、高齢者、生活困窮者までその分野は広がっています。この機会に農福連携について考えてみませんか？
社会保育	「なぜ子どもは独り言をつぶやくのか？」(講師 石本 啓一郎) 子どもたちを見ていると、なにやら独り言をつぶやいていることがあります。例えば、絵を描きながら「ここはちょっとなんかねえ・・・」、汽車のおもちゃを走らせながら「シューシュー降りてくださいーい・・・」など。この独り言は、年齢が上がると減っていきます。なぜ子どもは独り言をつぶやくのでしょうか。そこには、人と言葉のおもしろい関係性があります。子どもの独り言についての心理学をのぞいてみましょう。